

研究・調査報告書

報告書番号	担当
218	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Hazardous drinking: prevalence and associations in the Finnish general population. 有害飲酒：フィンランド一般集団における罹患率と関連	
執筆者	
Halme JT, Seppa K, Alho H, Pirkola S, Poikolainen K, Lonnqvist J, Aalto M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2008 Sep;32(9):1615-22	
キーワード	
有害飲酒 (hazardous drinking) アルコール摂取 疫学研究 有病率 アルコール乱用障害	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>有害飲酒 (hazardous drinking) はアルコールを危険なレベルまで摂取しつつもアルコール乱用障害(alcohol use disorders: AUDs)の診断基準を満たさない状態と定義される。この概念は近年、独立した補完的な診断であると示唆されている。本研究では、AUDs、中等量飲酒、禁酒と比較した有害飲酒の罹患率およびその関連の調査が目的である。</p> <p>方法：</p> <p>フィンランド人の代表的な抽出集団を「健康 2000 調査」より検討した。30 歳から 64 歳までの 4,477 人 (女性 76%、2,341 人) に関して、飲酒頻度の量的データおよび AUD 診断のための Composite International Diagnostic Interview (CIDI)データの両者が得られた。有害飲酒に対して、国内で推奨されるアルコール摂取上限値を用いた (一週間当たり男性 24 ドリンク、女性 16 ドリンク)。関連を検討するためロジスティック回帰モデルを用いた。</p> <p>結果：</p> <p>有害飲酒の罹患率は 5.8%であった。男性の方が女性より罹患率は高かった (男性 8.5%、女性 3.1%)。有病率は以下の群で最も高かった;年齢 40-49 歳 (7.3%)、離婚あるいは別居者 (8.3%)、失業者 (8.2%)、(ヘルシンキ)南部居住者 (7.5%)。有害飲酒と比較した AUDs のリスクは男性、失業者で高かった。一方、AUDs と比較した有害飲酒は 40 歳以上の対象者でリスク (オッズ)が高かった。中等量飲酒と比較した有害飲酒のオッズは男性 (調整オッズ比=3.24)、40 歳以上の対象者、失業者、非婚者で高かった。</p> <p>結論：</p> <p>有害飲酒の罹患率が高いことは公衆衛生学上の重要な問題である。有害飲酒者はその他のアルコール関連障害とは異なる社会経済学的特徴を有していることが明らかとなった。</p>	